“私たちで自治（つく）る学び” Learn by Creation NAGANO
イベントレポート

立場と地域を越えて共に学び合う18のプログラム

【実施概要】

3つのテーマのもとに、2021年1月にオンラインにて開催

「地域を越える」 1月9日（土）、10日（日）

「立場を越える」1月16日（土）、17日（日）

「共につくる」 1月23日（土）、24日（日）

各日3回のセッションと参加者同士の対話
（ラーニング・バディ）を実施

主催　長野県／一般社団法人 Learn by Creation

Learn by Creation
NAGANO

テーマ１
地域を越える

Learn by Creation NAGANO が目指す自治(つく)る学び

阿部守一（長野県知事）、内堀繁利（長野県教育委員会事務局 高校改革推進役）、竹村 詠美 （一般社団法人Learn by Creation代表理事）、井上英之（慶應義塾大学 特別招聘教授）

Point

- *学校や学び方も人や子どもたち同様に多様であるべき。*
- *長野県が目指す学びとは、子どもも社会の構成員＝市民として具体的な行動をし、アウトプットに結びつく学び。*
- *どんなに思いがあっても現場の先生が孤軍奮闘では続かない。対話できる仲間と、共に挑戦できる環境が必要。*

長野県の幼児の学びの今

海野暁光（認定こども園深志 園長）、内保亘（森のようちえん ちいろば 園長）、関裕子（幼児教育コーディネーター）、堀昌浩（一般社団法人Learning journey代表）

Point

- *主体性とは、心の４次元ポケットにため込まれた経験・記憶・意識・無意識などが何かの拍子に飛び出してきたもの。*
- *感じたありのままを表現する子どもに大人が応えていく、そのことが子どもが自ら考え、判断し、選び取り、行動することに繋がる。主体性は、お互いが関わりあいを持つ共主体的なもの。*
- *カリキュラムの語源は「初めて馬車が通った轍」。今は計画・プランの意に成り下がっているが、後ろから子供の姿を捉えることが重要。*

地域との関わりが生む深い学びの体験とは

赤坂隆宏（公益財団法人育てる会事業部主幹兼八坂美麻学園統括主任）、境久雄（新山定住促進協 議会副総務部長）、塚原諒（しなのイエナプラン スクール大日向小学校 地域連携ファシリテーター）

Point

- *大人が指示するのではなく、子どもたちの背中を押してあげて、子どもたちが自発的な興味関心に基づいて動けるようになることが大事。*
- *活動を長く続けるために必要なのは、お金が儲かるか、それでなければ楽しいか。*
- *相手の立場にとってそれがどう見えるか、受け取られるかを想像して日々の地道な活動に落とし込んでいく。*

子どもの主体性を引き出す学び

神津長生（佐久市立佐久平浅間小学校校長）／北澤嘉孝（長野市立東部中学校校長）／小木曽一希（長野県坂城高等学校 教諭）／荒井英治郎（信州大学教職支援センター 准教授）

Point

- *子ども同士の違い、教師との違い、地域の違い。3つの違いを活かして、これを力に変えていくカリキュラムや学校の仕組みをつくっていく。*
- *手をかけるほど、生徒たちがお客さんになってしまうような学校ではいけない。生徒が自治力を発揮するために、インプット型ではなく、アウトプット型の機会を増やしていく。*
- *今までの学び方を全て変えるフルチェンジではなく、今ある学習を繋げたり、その方法を変える再構築で、生徒が意義を感じられるものに組み換えていこう。*

チームでつくる学びの事例と気づき

西山卓郎（株式会社バリューブックス 寄付事業部責任者）／栗林梨恵（インターナショナルスクールオブ長野代表）／小島有（グラフィックデザイナー）／曳田裕子（軽井沢風越学園スタッフ）／井上太智（軽井沢風越学園スタッフ）／千々和淳（一般社団法人Learn by Creation 理事）

Point

- *学びの評価は心／スキル／知識の三本柱。今自分がどんなステータスなのかを、子どもたち自身が「見える化」して、次のステップを周囲と共に知ることが重要。*
- *複数の人でコラボレーションをする場合、最初にそれぞれが違うということをお互いに確認し合うことがポイント。*
- *学校の中で決められた授業やワークショップをやる時に大事なのは、子どもたちがその中で何を学んだのかを自分で客観化できること。*

あそび・ほぐす・まなび

馬場智一（長野県立大学グローバルマネジメント学部 准教授）／齊藤むつみ（長野県長寿社会開発センター長野支部 シニア活動推進コーディネーター）／勝山翔太（軽井沢風越学園スタッフ）

Point

- *既存のルールを変えてみるのは大人にとっては難しい。だけど、みんなで知恵を出して、色々な言葉や気持ちを交わしていくと、何か一つになって、また多様な意見が聞けて、それが私たちの学びになっていく。この一連のサイクルがある。*
- *最近は、色々な年代や地域の人たちと話すことが少ないが、オンラインでもこういった多世代でワクワクする場を作ることができる。*
- *子どもたちは、自然にほぐれる。子どもたちが遊ぶ場所、余白がある時間をつくってあげることが大事。*

テーマ２
立場を越える

まじる長野、学ぶ長野

伊東豊雄（建築家）、小川さやか（文化人類学者）、ドミニク・チェン（IT起業家･情報学研究者）、千々和淳（一般社団法人Learn by Creation理事）

Point

- *予測不可能なものを制御しようとスキルを積み上げていくのではなく、いろいろな人との交わりの中で、自分以上の自分が生まれる考え方もある。*
- *自分であることから離れるということを肯定する。他者に流されてみたり、他者の意見をそのまま採り入れてみて、自分の創造性がひらかれる。*
- *予測不可能な状況の中で好奇心を持って学び続けるには、個人の中にある多様性を互いに引き出せるような関係が必要となるのではないか。*

20年続く地域通貨コミュニティが自治(つく)り続けること

坂倉杏介（東京都市大学都市生活学部准教授）、孟晗（『もうひとつの明日へ』映画監督･千葉大学大学院･博士後期課程）、安井啓子（蚕都くらぶ･ま～ゆ代表）

Point

- *地域通貨ま～ゆは、購買や交換の仕組みではなく、身の回りの宝物を見つける、またそれが巡り巡っているということを、みんなで確認するためのもの。*
- *20年続くこの仕組みは、地域通貨の仕組みが続いているというよりも、色々な人の参加や出会い、そこで生まれる様々なプロジェクトが続いている。*
- *“自治“について。暮らしの中で、自分で判断し、自分で決める場所が沢山あることがとても大事なこと。*

学齢･学校を超えて一貫した学びと遊び 理想と課題

松下妙子（NPO法人ふじみ子育てネットワーク 代表）、小林雅彦（須坂市教育長）、國松秋穂（飯田OIDE長姫高校商業科教諭）、市川力（一般社団法人みつかる+わかる代表理事）

Point

- *学校へ上がったときのギャップの問題は、大人が子どもと新たな枠をつくったり、更新したりできるようになることを共に学ぶことで乗り越えられるのでは。*
- *幼児教育から学校教育が学ぶべきことは、子どもたちの背中を押し、先頭に立つ指導者ではなくファシリテーターとして見守る力。*
- *幼児であっても高校生であっても学びに必要なのは、第３の場所や、教員や保護者以外の大人たちとの関わり。*

コミュニティスクールの可能性
~地域と学校で協働する学び~

前川浩一（文科省総合教育政策局CSマイスター・美麻小中学校地域学校協働コーディネーター）、小野伸二（塩尻市立桔梗小学校学校運営協議会会長）、横手健二（北安曇郡池田町立高瀬中学校教諭）、高野薫（小布施学園コミュニティスクール委員）、ほか

Point

- *小布施でのコミュニティスクールの始まりは、先生と子どものものだけではない「地域の学校」、「学校を中心としたまちづくり」を目的としてつくられた。*
- *特産物の産業化など、地域の人たちが当事者となりつつ、子どもたちもその一員として学び、先生たちも共に学ぶ。結果として、先生たちと地域との間に深い信頼関係が出来上がる。*
- *より多くの地域の大人たちが関わることで子どもたちは自信を持つようになり、地域も活性化する。*

集え!! 偏人たち

篠原七彩（大学生）、郷進太郎（バックパッカー）、ゆでたかの（芸人）、宮田浩司（飯田市教育委員会）、吉川みのり（株式会社シソーラス）

Point

- *自分が当たり前と思っていた何気ない地域の暮らしや文化が、他の人から見ると、経験し難いものであったりする。*
- *百聞は一見に如かず。ニュースで報道されている事と、旅に行って感じる事は違う。ニュースなどの二次情報で判断するのではなく、実際に見ること。*
- *江戸時代はこんなに身近なものであった“性“が、なぜ現代ではタブー視されているんだろうって高校生の時から違和感を持って、知らない間に春画の世界に足を突っ込んでいた。疑問や問いを持ち続けることの大切さ。*

個別化、協働や共創を促す学びの空間と環境

荒木貴之（ドルトン東京学園校長）、森いづみ （県立長野図書館 館長）、丑田俊輔（ハバタク株式会社 代表取締役）、栗林梨恵（インターナ ショナルスクールオブ長野代表）

Point

- *めざす学びの場は寺子屋のイメージ。地域の人、専門家、保護者など、いろいろな人が出入りし、混ざり合う場。*
- *これまでの「静かに本を読む」図書館から、学びの糧となる資料やワクワクを引き出す仕掛けや人と人の関わり合いが組み込まれた、「共知、共創」の場へ。*
- *学校の統廃合の際、住民参加型で新しい学校づくりとして「越える学校」というコンセプトが生まれた。図書室などを地域とシェアし、年齢に関係なく学び続けられる環境を作った。これから学校と地域がお互いにどう連携していくのか楽しみ。*

テーマ３
共につくる

中山間地域の学びや体験を拡張するICT活用とは

大谷真樹（インフィニティ国際学院 学院長）、中島武（一般財団法人クラスジャパン教育機構 理事長）、宇佐美昌博（栄村立栄小学校教諭）、依田大志（株式会社アソビズム 長野ブランチプロジェクトリーダー）、讃井康智（ライフイズテック株式会社 取締役 最高教育戦略責任者）

Point

- *ICTにおけるモノづくりはまだ苦手な大人が多いので、むしろ子どもも大人も対等に共に学べる貴重な場では。*
- *指導する大人の経験がICTにはバイアスになっている場合もある。根本から、子どもたちは従来の常識の枠外の能力を身につけていることを大人は認識すべき。*
- *一番大事なのは「やりたい」という情熱を育むこと。そのためにICTがある。*
- *ICT学習に必要なのは、リアリティのあるテーマ。それは地方にこそあるのでは？*

LXC Universityその1 アナタの知らない世界 ~自分の好きを見つけよう~

県立松本県ヶ丘高等学校 高校生チーム

Point

- *「学びの関係人口」を増やす架空の学校で、他の人の好きを聞き、知らないことを知ることで、世界が広がっていく。*
- *白馬の民話、写真、川探検、日本酒、児童会活動、春、ボーカロイド、飛行機、鉄道、ネイチャーフォト、LGBTの、１１テーマについて、小学生から大学生まで、幅広い年齢の学生が発表。*
- *高校生の「アイデア」をベースにして企画運営を行うこと、そのものが学びの一番の当事者でもある高校生たちの学びとなった。*

教育行政の責任者たちが聞く、考える、答える

伊藤信男（木曽郡南木曽町教育長）、小池眞利子（上伊那郡箕輪町教育長）、澤井淳（上伊那 郡飯島町教育長）、竹内延彦（北安曇郡 池田町教育長）

Point

- *教育行政は、「管理・監督・指導」から「支援するプラットフォーム」へ。*
- *好きな学校に行けるようになる仕組みなどの改善は必要だが、一つの学校の中で多様な学び方ができるようになることがより本質ではないか。*
- *今後、こうして市民と対話する教育行政をつくっていかなければならない。*

個人や地域ネットワークから生まれる教育イノベーション ~米国ハワイ、ピッツバーグから~

テッド･ディンタースミス （教育ドキュメンタ リー『Most Likely to Succeed』エグゼクティブ･プロデューサー）、ジョッシュ･ラプーン （Most Likely to Succeed in Hawaii 代表）、スナナ･チャンド（Teach for America）、竹村詠美（一般社団法人 Learn by Creation 代表理事）

Point

- *ピッツバーグのリメイクラーニングでは、企業、学校、公共施設など600ほどの加盟団体がこれからの学びを共に研究し、大規模イベントであらゆる子ども達にその成果を届けている。*
- *学習者中心の学びを実践するには、子どもの成長につながる評価が必要で、それは必ずしもデータで表されるものではない。*
- *AI が劇的なスピードで進化している今、学びはAIができること、得意なことではなく、イノベーティブな人材を育てることにシフトする必要がある。*

生きる力を地域で育む

中邑賢龍（東京大学先端科学技術研究センター教授）、森和成（株式会社ライジング･フィールド代表取締役社長）、太田いくこ（農家民宿ふれあい農園おおた）、草本朋子（白馬インターナショナルスクール設立準備財団 代表理事）

Point

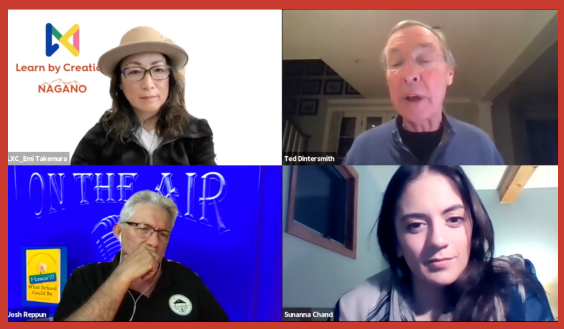
- *「本気で向き合う」：民宿で出会う全ての子、その目の奥に何を考えているのかを一生懸命、探り出すことに心を砕いて、「本気で向き合う」ことが大切。*
- *「思いを生かす」：大人も子どもも自分自身の思いに思いを馳せ、お互いに活かし合える社会を目指していくべきだ。*
- *「離れて見守る」：子どもから大人が離れられない社会になってきている昨今、それ自体が子どもたちの力を奪ってしまっている。子どもに寄り添わなくて良い社会へ動いていかなければいけない。*

私たちはどのように学びを自治(つく)っていくのか

石山れいか（軽井沢風越学園スタッフ）、内堀繁利（長野県教育委員会事務局 高校改革推進役）、竹内淳子（小布施町議会議員）、竹内延彦（池田町教育長）、西山卓郎（株式会社バリューブックス）、吉川みのり（シソーラス株式会社）ほか

Point

- *Learn by Creation NAGANO が「内」でも「外」でもない、いろいろな人が足を踏み入れてみたくなるような、「縁側」になるといい。*
- *インフォーマルな立場で気軽に言いたいことが言える、何気なく寄って話せる場所としての「縁側」があると、もっと多くの人の意見や思いが出てくる。*
- *思いを共有するだけで終わることなく、とりあえず何か「やってみる」につながっていくといい。*



イベント登壇者は海外から県内小学生まで約100人、視聴者は延べ2000人を超えました

参加者の声

- なるべく地域側のひととして、学校や教育現場に対して自分にできることを伝えていこうと思いました。
- これからも長野県の教育について、様々な年齢、立場、職業の方たちと一緒に対話して共通了解を見出していければ素敵です。それにそって、県は施策を考え実行していけばよいのではないでしょうか。Learn by Creation NAGANOは官民融合、これからのモデルになると思います。
- 学校も地域の一部。地域と共に変わっていきたいです。
- 長野は、PBLや探求型学習、イエナプランなどなど先進的な取組みが進んでいるので、その牽引力に期待しています。
- これをきっかけに長野に大きな学びのウェーブを生み続けられるといいなと思います。
- 「地域に開いた学び」「自治」といった考えの解像度が上がった気がします。「市民としての学び」「多様性を認め合う学び」を探究していきたいと思います。たくさんの気づきがある素敵な時間となりました。
- 長野県が教育先進県ということは聞いていましたが、対話の場で長野県のお話をお聴きし、後で調べて長野県の教育状況を少し把握できました。今回のような取り組みを始めた長野県の今後の教育は注目に値しますね。
- 日々の身近なところに学びのきっかけがある事を改めて認識した。
- 地域のコミュニティスクールへアクセスしてみようと思いました。
- 先進的な学びの在り方、ぜひ継続的に発信していただきたいです。また、長野を越えて、あちこちの取り組みにも関心があります。

本紙で紹介の動画はこちらから

“私たちで自治（つく）る学び”

Learn by Creation NAGANO
YouTube チャンネル

Learn by Creation NAGANO

Learn by Creation NAGANO（ラーン・バイ・クリエイション 長野）は、組織や立場、年齢も越えて共に学び合う場をつくり、学びの関係人口を増やすことを目指すプロジェクトです。

公式Webサイト　https://nagano.learnx.jp
Facebook　facebook.com/LearnXCreationNagano
Twitter　twitter.com/LXC_NAGANO